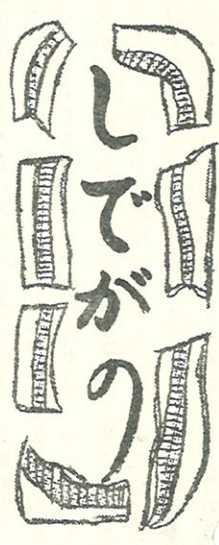


わが家の教育方針

＝ 父親の提言 ＝



しでがの通信
第49号
羽津小 P・T・A
編集発行
発行所 羽津小学校

父親

都野雄二

世界の国の中で子どもに甘く子ども中心に動いているのはイタリアと日本だと言われているが、たしかにそういう現象が目につく。

例えば、混んだ電車の中で、老人を立てせても、子どもの席を確保するために、血眼の親が多い。少くとも、小学生以上だったら立たせたら良いと思う。

又、夏休みなどに子どものためのスポーツや遊びの集りがあるが、そのために親が除草やお茶当番や後片づけにかり出されている。そのぐらいのことは、子どもでも十分できることである。

私見だが、PTA三十年の歴史の或る面が、子どもの身心の成長にマイナスをもたらしたのではなからうか？

先生を囲んでの父兄の話は、先生の教え方についてこまかい注文とか、批判が多く、さらには、家庭内の躰に属することまで先生に要求していることが

ある。学校での教育はプロである先生に一任すべきであり、反面、子どもの日常生活の過し方は、親が責任を持って指導する事柄である。

子どもは或る面では親以上に先生の影響を受け易い。そういう面から特判断力の乏しい小中学校生徒を受け持つ先生は、かつての軍国主義的思想を強く出したり、近時マスコミを賑わす日教組的な言動をあらわにすることは避けるべきであろう。感受性の非常に強い年頃にある生徒は、先生の日常の後姿や言葉のはしから、誤った影響を受ける結果になるであろう。矢張り小中学校における先生の役割は、教科の指導は勿論だが、特定イデオロギーで白紙の子どもを染めるのではなく、社会人として最低守るべきこと、言い換えば倫理の基本を自然に身につけさせることにあるのではなからうか。

高一と小六の二女の父親だが、所謂、教育についてはまことに不熱心であり、まして教育方針というべきものもっていない。たゞ子どもに対する過保護、子どもや学校に対する干渉のし過ぎを

目次

父親としての私	1
我が家の教育方針	2
ある山ゆき	3
陶芸教室	4
児童作品	5
見聞	6

我が家の教育方針

森 憲 一



我が家は長男と、としこの妹の二人兄弟である。

二人とも、かけがえのない大事な子どもである。

そして、二人共、日々、すこやかに元気に育っている。

知識広ければチャンスも多いというが、私は子どもの家庭教育については、

あまり多くを期待していない、なぜなら、子どもが出来すぎて親の手許から離れていくのを、自分が嫌うからである。

私は自分の老後は孫に囲まれて一緒に暮らしたいとかねがね思っている、そのみを自分の理想の家庭と思っ

る。無理に習い事にも通わせていない。勉強、勉強で子ども心を傷つけ、ひねくれさせてはいけな

いと思うが故に、今のところ子ども達には好きなようにさせてい

る。無理に習い事にも通わせていない。勉強、勉強で子ども心を傷つけ、ひねくれさせてはいけな

子であってほしい。子どもの教育については、自分は何も確たる自信がないので、そのつど、先生や先輩の良き助言に、忠実に従っていきたいと思っ

父親としての私

岡田耕作

子供の本来の型は、素質であるが、素質を年令の生長に任せ放しというわけには行かぬ。つまりそこに教育の必要があるのであり、教育によって人

生観を形成することとなる。教育は学校教育と家庭教育に分かれるが、この両者は共に重要であって甲乙は無い。

が、終日に及ぶので、残念乍ら、子どもを教える時間的余裕がないのだ。子どもが生れて以来その方面の事はすっかり女房専任なので、女房を通じて子どもの生長を見守る様になってしまっ

ている。そういう次第から、子どもに對する良き躰、子ども等に伝えておき度い我が家の昔からの伝統は、先づ女房に解説して行かねばならぬ事情とな

っている。その成績は、というに、まあさほどかんばしからぬ、不行届き面も少なからずある。しかしこれを女房

にやかましくなると、なじられた方もかんしゃくを起してしまふというわけ、まあまあ所で妥協しておかねばし

父親のねがい

五年一父兄

仕事に追われて暮らしている父親たる者、子ども等が、病氣にならず、怪我せず、事故を起さず、元気で無事で私に心配をかけずに育って行ってくれ、それが何よりかと、教育の目標もあ

いまいとした気持ちに立返ってしまふ毎日ではある。 何十年ぶりかで原稿用紙に向かつて、何を書こうと考えてみる。我が家の教育方針等と、大それたものはないが、私はまず子どもの手本は親からという信念を持っています。

沖繩の海と空

岩崎美代子

独立精神が旺盛なの、見知らぬ異國の人となるかも知れないが、自由な期待をしたい。 海洋の森をすぎる魚が拍手をする

と、眼下に海が広々と、又おそろしくも感じる屋外、屋上にはアクア広

場があり、休憩所、芝生も植えてある。虚な気持ちで自然に学ばなければいけない。三泊四日の旅も終り各会場が見渡せる。に近づきました。日常のざつと

我が家の教育方針

別名 竹中

とかく〇〇方針と名付けられると、自然に肩ひじを張った感じがして来る。施政方針演説も、とかく現実

うもないことを実行したいという官僚の作文となる。 「我が家」というほどの家風をもち

合わせていない「我が家の教育方針」では、施政方針とちがって「出来ることだけをやる」ということぐら

い。追いたてなくても当人が自分でやる気になり、自分の好きなこと、自分にむいたこと、自分で決めたこと、自分の能力に応じたことをのびのびとやれば、すばらしい教育だと確信して、これを方針としたい。これを名付けて「昆虫教育方針」という。

昆虫 供のために、すばらしい智慧で(本能を智慧と呼べるのなら)

果を用意し、無事に果立てるようにしてやるが、一旦、果立てば、あとは自分の力で生きて行くようにしている。

だから、子どもが環境が可能なように努力し、将来のためになるだろうと思われ、将来を予め考えるし、アドバイスも与えるし、自分の事は自分で処理するよう、教えるつもりだ。

鳥のように、掃えるまで面倒を見たり、哺乳動物のように、えさのとりの方、敵からの逃げ方まで教えていることから考えると、甚だ冷淡な感じが否めないが、あえて昆虫教育でいく。

子どもが自分の考えで、自分で努力し、自分の長所、短所を自然に、或いは努力して知り、自分のしたいようにしても、人の迷惑にならないような生き方を将来、身につけることを期待している。

話のピュツフェ



ある山ゆき

石田富美子



朝な夕な鈴鹿の山々を眺めながら育った自分にとつて、この山はロマンチシズムの豊庫ともいえる。かつての昔、まだロープウェイの無かった頃の御在所山、すすきの波を泳ぎながら登った藤原ヶ岳、ゆるやかな峠を幾重にも越えた青山高原等、各々の趣を持った山々が好きである。そろそろ子供達が山歩きの出来る年齢になった頃から、我が家の健康増進とレクリエーションとしての山歩きが始まった。

八月三日 御在所山を征服しようということになった。雲一つ無い快晴に恵まれ、始めてのコース、中道を登ろうという事で、期待と不安をいだきつ、いささかきつい斜面をよじ登るように山中に分け入る。

真夏の太陽が射るようになり注ぎ、出合う人もない家族だけの自然の世界である。何んだか心細い思いをしながらも、赤いゴンドラの行く壮大な風景が展開された時、ほっとした安堵をおぼえずにはいられなかった。何度も休憩をしながら、おぼれ石までたどり着く。そこには安らぎの場なのであろう人達の話し声がにぎやかである。

太陽は容赦なく照り、雄大な夏山の懐にしたりつつ、がむしゃらに登りつめて行く。一番の難所なのであろうか、危なっかしい岩場に出た。「とんでもない所へ来てしまったわ」腹中隠やかでない。「喘息」という病名を、一日も早く返上したい子どもなど、「ぼく、高所恐怖症だよ」と情けない顔、辺りの風景を満喫する余裕等全くなく、岩にしがみつく、に通過した。

バザー

開催のお礼

年々児童数は増加して、学校施設、設備の整備は、市当局の配慮、努力にもかかわらず遅れがちになっている現状で、いきおいPTA会員の皆様には種々とお世話になっております。

十一月七日のバザー開催に当っては、全会員の皆様は初論、役員の方々は、数日前より準備等ご協力、ご活動を賜わり、多大の収益を上げていただきましたことにつき、厚くお礼を申し上げます。

例年、運動会、児童参加賞をはじめ諸経費に充たさしていただいています。本年度は校舎建築中で、運動会も小規模に実施致しましたので、収益予定外金を児童の日常活動する諸経費に充たさしていただく所存です。

講堂が活用出来なかったことで例年ない御苦勞をおかけしたことをお詫び致し御礼にかえさしていただきます。



快良い風が木々の間をぬける時、頂上はもうすぐ近くにあった。行き交う若物達の声に励まされながら、山路を一気に登りつめた所に頂上の風景が展開された。山中の孤独感から脱け出て、たむろする人々のざわめきを。こんなにも恋しく思ったのは何故だろう。そこはもう秋である。いつの日か相見てもあろう、山々、々々。帰途は裏道を下山することとした。溪流に沿って、ころけるように降りて行く。下ったところには、身を休める宿が自分達を待っていてくれるのである。温泉の湯を思い起こし、「今夜の御馳走は何かしら」と家事からの解放感が余計に身を軽くしてくれるのであろう。

またたくうちに下って行く。自然、孤独、社会……それぞれの味わいをかみしめながら――。せせらぎの音かろやかに吾子達は 夏の陽ざしを背に浴びて行く。

余暇



百周年の記念樹にと、子どもたちと校庭の松笠を拾って、実生を試みたのが盆栽作りには拍車をかけることになった。今では、立派に黒松苗が育っている。更来年には、この子らの卒業記念樹にもなるようにと、目下丹精して培養している。



この試みで、朝夕水をかけたり、肥料を与えるだけでは、一様に育たないことに気づいた。環境条件や技術的なテクニクの他に、それ以前の問題が如何に大切であるか、ようやく理解できた。

今までは、整姿にこだわり、やれ剪定だの、針金かけだのと、せっかちに盆栽美を求め、盆栽する心を忘れていたようだ。

また、目に見えない土中の根の状態が個々に違うことや、同じ黒松でも個々に個性があって、夫々の盆樹が、今何を求め、今どうしようとしているかを見究め、それに応じた手入れを施してやるのが何より大切だ。

盆樹にこころよせて

志村量勝

このような時、親の心子知らずで、あせりは絶対に禁物である。毎日子どもと対話して、本当に個々の子ども心の中に飛び込み、一人一人の子どもの本音を掴まえて、心の中をしかと見究めた上での指導でなければ、弊害はあってもよくすることにはならないだろう。

大人の考えで、一方的に押しつけたり、要求せず根気よく温い愛情で接してやるべきだ。

また、大人には子どもを保護してやる責任があるといつて、子どもの心情

小鳥

四ノ四 森しのぶ

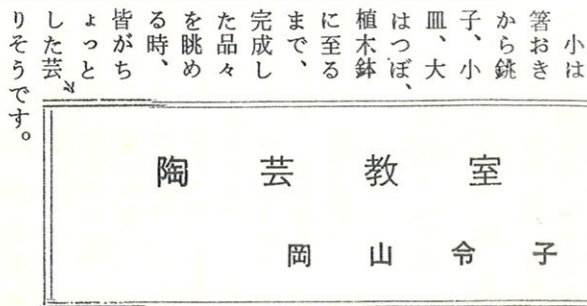
小鳥が一羽 道を歩いているそこへ 車がきた

「あぶない」と思ったうちに小鳥は ぺちゃんこになって死んでしまったまだ小さいのにとつても かわいそう

おかあさん鳥がさがしているかなあさがしていたら教えてあげたいこのことを

本年も恒例により、サークル活動の一つとして、十月に陶芸教室を開催しました。

今回は初めて参加された方も多かったのですが、志氏野陶園木村先生の御指導のもとに、校長先生はじめ先生方、父、母、子供達が一堂に会し、自己の作品を創造する充実感、素晴しいものでした。



小は 箸おき から鉢 子、小皿、大はつば、植木鉢 に至る まで、完成した品々を眺め る時、皆がちよっとした芸にそうです。



当地は万古焼の産地として知られ、手造りの良さを再認識する絶好のチャンスに恵まれていると申せましょう。

次回は三月に予定しておりますので、多数の御参加を歓迎いたします。

児童作品

おふろ

二一ニかとうちさき

おふろは 楽しい。
おふろは 夜のプール。
いつでも はいれる
かていの プール。
からだも あらって もらえる、
とくべつなところ。
友だちと いっしょに、
はいれると いいなあ。
おふろは 大きすぎだ。

おちばひろい

一三小林さとみ

きのう、わたしは おかあさんと
おねえちゃんとしてじんじゃまで
じてん車に のって おちばひろいに
いきました。
大きな はっぱや、小さい はっぱが
ありました。
いちょうのはっぱや さくらの
はっぱが たくさん ありました。
はここに いっぱい たまったので
ど んぐりを ひろいました。



どんぐりを いれるはこを もって
いなかっただので げけつとにいれまし
た。
げけつとの中も、どんぐりで いっぱ
いになったら ちがう ほうの げ
けつとに いれました。
かえりは かぜが つよかったの
じてん車を おして かえりました。

おほしさま

二一四まつもとまゆみ

ほしは 夜になると、
いつも キラキラ している。
きれいな すがたを
見せてくれる。
でも、雲の おおい日には、
あまり 見せてくれない。
どうしてだろう。
雲と、かくれんぼをして
あそんでいるのかなあ。

ぶらんこ

二一五小林美千代

ぶらんこは ゆれる。
風が ふくと、

ぶらん、ぶらん、ゆれるよ。
わたしが、のると、ゆれない。
ふしぎだな。
また、じぶんの 足で こくと、
ゆれるんだ。
これも ふしぎだな。



常任委員会だより

去る十一月十二日(水)午後七時よ
り、第六回常任委員会を開催致しまし
たので、要点だけ報告します。

一、バザーの報告

(母親部長より)
皆様の御協力により、三十五万五百
円あげさせていただきました事を
御報告申し上げます。

二、給食試食会の報告

大変よい試みで御好評でしたが、
運営面で今後一考を要するところ
がありました。

三、子どもの健康調査報告

(福祉保健部より)

アンケートを集計して、各家庭へ
配布させていただきましたので、羽
津小学校の子どもの健康の状態をよ
く理解し、健康増進に役立ててほし
いと思います。

四、学校行事報告(教頭より)

ですくさいど

◎二学期は、文字通り過密ダ
イヤ、編集室も多忙に押し
ながされ、つい遅れました
事をお詫びいたします。

◎最近、或る全国的な女子大
で両親についてのアンケート
をとったところ次の様な
結果が出た事を先日講演会
で聞きました。自分の父
親又は母親をみて、
父親として尊敬出来るか?
「出来る」九〇%
母親として尊敬出来るか?
「出来る」九八%
①

② 自分の夫として「よい」七%
一人の妻として「よい」五〇%
一人の男性として「よい」三%

③ 一人の女性として「よい」一%
現代の親は、親としては一応及第の
様ですが、若者の眼に映る男性、女
性としては、イメージダウンの様で
す。◎先号につゞき父親の教育提言
と次に母親の教育提言を連載してい
く予定です。◎話のビュッフェで
は、皆様の建設的な御意見や、又そ
の反論等、或は文芸作品等、自由な
御投稿をお待ちいたします。
PTAと児童の三者合同の、コミュ
ニケーションの広場として、親しみ
のある、そして生き生きとしたもの
でありたいと思っています。本誌の
一層の充実進展を願いつつ、。